

神鋼記念病院 感染対策センター
センター長 香川 大樹

【どうすれば疑わしい疾患を想起できるのか？】

前回は不明熱を例に挙げて、「ライム病→野外活動歴があれば考える(=なければ除外可能)」というように、鑑別診断ごとに絞り込み(除外)に役立つ病歴をまとめておくことの重要性をお話ししました。

しかし、絞り込んでいく(消去法)だけではなかなか正しい診断に至りません。「この疾患の可能性が高いのでは？」と目星をつけること(ひらめき)が出来ないと時間がかかってしまいます。では、どうすれば疑わしい疾患を想起できるのでしょうか？

疾患ごとに「どのような臨床像があれば疑わしいか」というポイントを事前にまとめておけばよいのです。たとえば、ライム病であれば、「夏

季の野外活動の3~32日後に、遊走性紅斑(80%の患者に見られる)を発症し、その数日~数週間後にインフルエンザ様症状を間欠的に発症し、数ヶ月以降に関節症状や神経症状をきたす」といった具合です。

病名を知っていても、その疾患に罹るとどのような経過をたどるのか(臨床像)を知らなければ、おそらく診断できないでしょう。以前に経験したことがある疾患ならば診断は比較的容易ですが、鑑別診断に挙がる全ての疾患を経験しておくことは不可能です。“ポイントとなる臨床像”を事前にまとめておけば、これまで経験したことのない疾患であっても効率良く診断できるようになるはず。

Medical News

2017年10月
Vol.124

Shinko Hospital

Contents

- *特集：外科
[神鋼記念病院 外科の「今」]
- *開業医探訪
[やまだ整形外科クリニック]
- *感染症科医のつぶやき
- *Information
・講演会のご案内

神鋼記念病院理念

公益性を重んじ、質の高い医療を通して、皆様に愛される病院を目指します。

基本方針

1. 快適な医療環境と医療設備を整え、安全で質の高い医療を提供します。
2. 患者さんの人格や価値観を尊重し、プライバシーを守ることを約束します。
3. 断らない救急医療を目指し、地域社会の信頼と期待に応えます。
4. 地域の医療機関や行政との連携を密にし、切れ目のない医療サービスの提供に努めます。
5. 高い医療技術を持った人間性豊かなスタッフを育成します。

社会医療法人神鋼記念会
神鋼記念病院

〒651-0072 神戸市中央区脇浜町 1-4-47
TEL: 078-261-6711 (代表)
FAX: 078-261-6726
URL: <http://www.shinkohp.or.jp/>
発行責任者: 理事長 山本 正之
編集責任者: 神鋼記念病院広報委員長 山神 和彦

講演会などの
詳しい情報は
こちらから!!

神鋼記念病院

検索

<http://www.shinkohp.or.jp/>

Information

Info 1

第27回研究カンファレンス (個の医療研究会共催)

- ◆ 日時: 2017年10月17日(火) 18時00分~19時00分
- ◆ 場所: 神鋼記念病院 呼吸器センター 5階 大会議室
(神戸市中央区脇浜町 1-4-47 TEL: 078-261-6711)
- ◆ 特別講演: 「感染拡大の恐怖~想定外に備えよう! 新興・再興感染症~」
演者: 神鋼記念病院 感染対策室 副室長 谷口 亨
- ◆ その他: 日本医師会生涯教育認定講座 1単位申請中
- ◆ 問合せ先: 神鋼記念病院 総合医学研究センター 担当: 兒山

Info 2

平成29年度 神鋼記念病院 地域医療連携交流会

- ◆ 日時: 2017年10月19日(木) 18時30分~20時30分
- ◆ 場所: 神鋼記念病院 呼吸器センター 5階 大会議室
(神戸市中央区脇浜町 1-4-47 TEL: 078-261-6711)
- ◆ 演題1: 「気管支喘息に対する新しい非薬物治療~気管支サーモプラスティ~」
演者: 神鋼記念病院 呼吸器内科 医長 門田 和也
- ◆ 演題2: 「意外と多い二次性高血圧 ~原発性アルドステロン症~」
演者: 神鋼記念病院 高血圧センター長 亀村 幸平
- ◆ その他: ・日本医師会生涯教育認定講座 2単位申請中
・ささやかではございますが親睦会を設けております
- ◆ 問合せ先: 神鋼記念病院 地域医療連携センター 担当: 浅田

*名札やお食事をご用意致しますので、10月6日(金)までにお申し込みをお願い致します。

【講演会に関するお問い合わせ】 TEL: (078)261-6711(代表)・FAX (078)261-6726

神鋼記念病院
Medical News
2017
10

[特集 外科]

神鋼記念病院 外科の「今」

はじめに

当院は2015年4月に社会医療法人に認可されました。社会医療法人はより公益性の高い医療を担うことが求められており、地域に密着した医療をおこなうことが使命となっています。今月は、地域医療への取り組みを含めた当院外科の「今」をご紹介します。

外科の構成とスタッフの紹介

当院外科には、12名の医師が在籍しています。卒後6年目以上のスタッフが9名(内視鏡外科技術認定医3名、

肝胆膵外科高度技能指導医1名含む)、卒後3年目の専修医(後期研修医)が2名です(図1)。

現在の医療は、各病態に応じた専門性の高い診療が求められており、当科もそれに即して、2010年から外科を消化管外科、大腸骨盤外科、肝胆膵外科、一般外科の4つに細分化しました。各専門科が担当する主な疾患は、消化管外科[食道がん、胃がん]、大腸骨盤外科[結腸がん、直腸がん]、肝胆膵外科[肝臓がん、膵臓がん、胆嚢・胆管がん]、一般外科[鼠径ヘルニア、痔核、痔瘻]です。急性虫垂炎、胆石性胆嚢炎、消化管穿孔、腸閉塞などの救急疾患は、各専門科の垣根

を越えて全員で診療にあたっています。治療方針の決定は消化器内科、放射線科及び薬剤室、手術室、栄養室が加わる多職種合同カンファレンスで決定しています(図2)。

手術件数の年次推移と最近の手術実績

図3に手術件数の年次推移を示します。過去5年間、手術件数は順調に増加しており、昨年の手術件数は908件で、約1/4の225件が緊急手術でした。図4に各臓器の術式別手術件数を示します。

主な術式の2016年度年間手術件数は、食道切除:7例、胃切除:54例、大腸切除:143例、肝切除:23例、膵切除:19例、胆嚢切除:153例、ヘルニア:183例、虫垂切除:77例でした。食道がん、胃がん、大腸がんなどに対する消化管悪性腫瘍手術、肝臓がん、胆嚢がん、膵臓がんなどの肝胆膵悪性腫瘍手術、鼠径ヘルニア、内痔核、胆嚢結石症などのcommon disease、急性虫垂炎、急性胆嚢炎、消化管穿孔などの腹部救急疾患に対して幅広く対応しています。



図1 外科スタッフ [4つの部門に分かれて専門的治療にあたっています]



図2 多職種合同カンファレンス

表1 術式別手術件数(年度)

臓器	術式	2015	2016
食道	亜全摘または下部食道切除	総数 5	7
	胸腔鏡下	3	7
胃	幽門側切除	総数 28	31
	胸腔鏡下	20	19
全摘	総数	23	23
	胸腔鏡下	3	10
十二指腸	潰瘍穿孔部	総数 8	13
	大網充填	胸腔鏡下 8	11
大腸	結腸切除	総数 101	100
	胸腔鏡下	74	79
直腸切除・切断	総数	54	43
	胸腔鏡下	44	34
肝	系統的肝切除	総数 14	10
	部分切除	総数 14	13
胆	胆嚢摘出	総数 115	149
	胸腔鏡下	112	140
膵	膵頭十二指腸切除	総数 11	12
	膵体尾部切除	総数 6	7
胸腔鏡下	膵体尾部切除	2	1
	膵体尾部切除	2	1
肛門	痔核切除・ジオン注射	59	44
	痔瘻	9	26
ヘルニア	鼠径・大腿	173	183
	腹壁癒着	8	9
虫垂	虫垂切除	総数 57	77
	胸腔鏡下	56	77
腸閉塞	腸閉塞症手術	総数 36	45
	胸腔鏡下	1	1

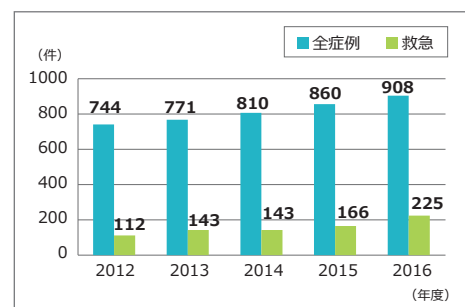


図3 手術件数の年次推移

当院の取り組み ～「今」～

現在当科では、以下の内容に重点的に取り組んでいます。

① 腹部救急疾患に対する迅速かつ適切な対応

当科では2013年5月から「腹部救急ホットライン」を創設しました。これは、当科スタッフが専用のスマートフォンを常時(24時間365日)携帯し、救急病院や近隣の開業医の先生から、直接電話で相談を受けるシステムです。昨年1年間で36人の患者さんをホットラインでご紹介いただきました。ホットラインの対象は、緊急手術が必要な急性虫垂炎、胆嚢炎、消化管穿孔、絞扼性イレウスの患者さんはもちろん、吐・下血に対して緊急で内視鏡処置を要する患者さん、入院での重症管理を要する急性膵炎の患者さんなどです。医師同士で直接話しが出来るため迅速かつ適切な受け入れが可能になっています。今後も「腹部救急ホットライン」を是非ご活用いただきますようお願いいたします。

腹部救急ホットライン
神鋼記念病院外科
TEL 080-4653-0434

② 低侵襲を追求した腹腔鏡下外科手術

腹腔鏡下外科手術の最大の利点は、創が小さいため術後の疼痛が少ない点です。これにより入院日数も短く、早期に手術前の生活に復帰することが可能となっています。

術式別手術件数を表1に示します。昨年1年間におこなった腹腔鏡下手術の割合は、食道切除:100%、胃切除:54%、大腸切除:79%、胆嚢摘出術:94%、虫垂切除:100%でした。急性虫垂炎、急性胆嚢炎、十二指腸潰瘍穿孔などの緊急手術症例に対しては、ほぼ全例、腹腔鏡下手術をおこなっています。悪性腫瘍に対しても、治療ガイドラインに沿って腹腔鏡下手術をおこなっています。

③ 肛門機能温存を重視した直腸がん手術および排便機能障害外来

結腸・直腸切除に対する手術は年々増加しており、約8割を腹腔鏡下におこなっています。特に、肛門から数センチの部位にある直腸がんは、従来、人工肛門の造設を余儀なくされてきましたが、当院では根治性を損なわずに肛門を温存する術式(内肛門括約筋切除術:ISR)を積極的にこなしています。

また、下部直腸がんに対して肛門を温存する手術では、術後の排便機能が患者さんのQOLを左右する大きな問題です。この術後の排便機能や慢性便秘の問題に対して2014年9月から

「排便機能障害外来」を新設し、科学的に大腸および肛門機能を評価し治療をおこなっています。

④ 根治性と安全性の両立を目指した肝胆膵悪性腫瘍手術

肝切除、膵頭十二指腸切除、肝門部胆管がん手術は、難易度が高く、術後合併症が比較的多い手術ですが、根治性と安全性を保ちながら、「癌遺残なき切除」を目指して積極的に血管合併切除を含めた拡大手術をおこなっています。また、腹腔鏡下手術も取り入れ、手術の完成度を保ちながら傷を小さくする試みを続けています。

大腸がんの肝転移に対しても抗がん剤治療成績の飛躍的な向上に伴い、積極的に肝切除を行う方針で治療を目指しています。

⑤ ヘルニア・肛門疾患手術

当院は県下における有数の鼠径ヘルニア手術実施施設となっています。手術方法は主に、ダイレクト・クワゲルメッシュを使用した前方アプローチ法(腰椎麻酔・局所麻酔)、または腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術(全身麻酔)をおこなっており、入院期間や創部の整容性など患者さんのご希望をお聞きした上で術式を選択しています。

また、痔核治療では、痔核硬化療法としてジオン注(硫酸アルミニウムカリウムとタンニン酸)を局所に注入し、痔を硬くして粘膜に固着・固定させる治

療法もおこなっています。局所麻酔で施行可能であるため、入院期間の短縮が可能になっています。

⑥ 高齢者に優しくかつ適格な手術

近年、高齢者の外科手術が増加傾向にあります。国連の世界保健機関(WHO)の定義では、65才以上を高齢者としています。長寿国であるわが国では、総人口に占める高齢者の割合は約27%と4人に1人が高齢者であり、今後ますます増加していくことが予想されます。図4は、2013年1月～2017年9月までの当科での65才以上の高齢者の年代別消化器手術症例数を示しています。3,978全症例中、65才以上の手術は2,413例(61%)と半数以上を占め、75才以上が1,268例(32%)、85才以上が328例(8%)、90才以上の超高齢者も84例(2%)の患者さんが手術を受けておられました。2013年から今年9月までの期間で、年代別の手術件数の推移をみてみますと、全症例の手術件数の増加に伴い、65才以上の高齢者の手術件数も増加していますが、なかでも85才以上の超高齢者手術が増加していることがわかります(図5)。高齢者の場合、心血管系疾患、糖尿病など複数の併存疾患を有していることが多く、治療の選択に際しては、手術リスク及び術後に予想されるQOLについて、ご本人、ご家族と十分ご相談した上で適格な治療をおこなうよう努めています。

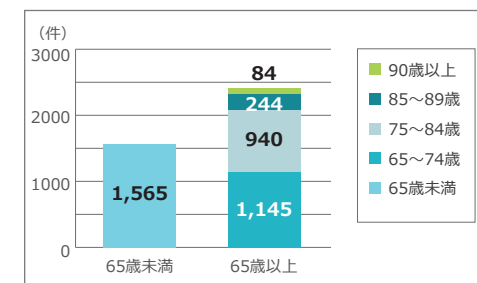


図4 高齢者年代別消化器手術件数(2013年1月～2017年9月)

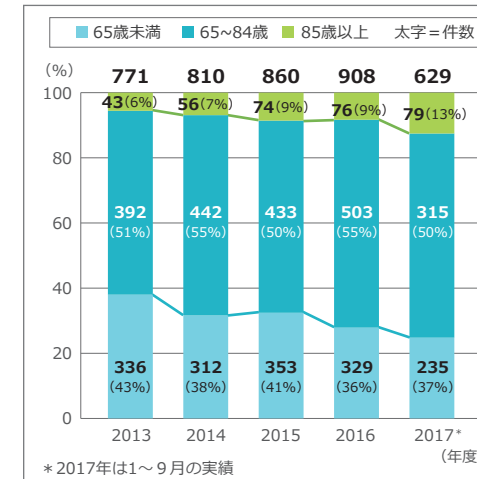


図5 高齢者年代別消化器手術件数の年次推移

おわりに

以上、当科スタッフと重点的に取り組んでいる診療内容の概略についてご紹介いたしました。次号では、食道がん、直腸がん、膵臓がんに対して現在当科が取り組んでいる治療方法について詳しくご紹介させていただく予定です。今後とも神鋼記念病院外科を宜しくお願い申し上げます。

[筆者:副院長 藤本 康二]

開業医探訪 Vol.35

inquires into a doctor

[整形外科]

やまだ整形外科クリニック

今回の開業医探訪は、阪急春日野道駅が最寄り、ピンクの建物が目印の「やまだ整形外科クリニック」を訪問致しました。



■ 診療を開始されてどれくらいになりますか？

平成13年に阪急春日野道駅北側にある、「かすがの坂商店街」近くで開業しました。平成27年に山手幹線沿いに移転し、今年で16年目に入ります。

■ どのような患者さんが来院されますか？

60・70代の方を中心に腰痛・膝の痛みを訴えて来院されています。日本リウマチ財団登録医でもありますので、リウマチの患者さんも多く来院されます。さらに、兵庫県バスケットボール協会の医事委員長を務めていることもあり、スポーツ整形の患者さんも診療しています。

■ 診療にあたり心掛けていることは何ですか？

病状についてしっかり理解されていない患者さんが多いこともあり、時間をかけてお話するようにしています。お待たせしてしまうこともあります。長年通院されている方にはご理解頂いており、診察を受けられ安心して帰られているようです。

■ ひとこと

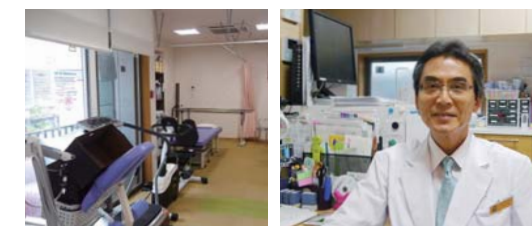
整形外科の治療として今後求められることは、「骨折」、「関節注射・ブロック注射」、「リハビリテーション」と考えています。特に「リハビリテーション」は今後ますます重要になるものと思っています。当院では平成23年より理学療法士(2名)によるリハビリテーションを実施しており、引き続き地域医療の貢献に努めていきたいと考えています。

information

- 神戸市中央区割塚通7丁目2-1 コンフォート春日野2階
- TEL : 078-262-6780
- 診療科: 整形外科・リウマチ科・リハビリテーション科

※木曜午前: 祝日のある週のみ診療

	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	○	○	○	×	○	○	×
15:30~18:30	○	○	○	×	○	×	×



院長 山田 博先生